

世界が注目する

日本映画たち

Interview

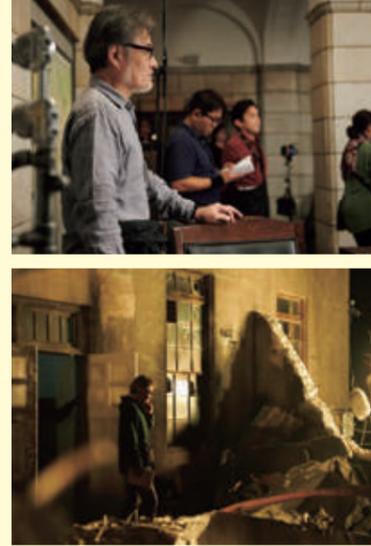
19回目を迎える「シネマ・セレクション」——誰かを想う気持ちが詰まった名作が集まりました。映画賞を席巻する「スパイの妻(劇場版)」の黒沢清監督にお話を伺いました。

4月17日(土) 17:40上映

祝ウエネテア国際映画祭 監督賞 銀獅子賞受賞
「スパイの妻(劇場版)」

教子たちのオリジナル脚本で
臨んだ初の歴史ドラマ

ある日、東京芸大で教えた野原位から連絡が入り、「神戸で映画を撮る気はないか」とオファーがありました。彼は以前神戸で撮影した『ハッピーアワー』に関わっていて、声をかけてくれたんです。数ヶ月後、同じく芸大で教えた濱口竜介と共に提出してきたのが『スパイの妻』と題した脚本でした。



物語の舞台となる室内はすべて本物なので、大変見ごたえがあると思います。とりわけ夫婦の住む神戸グッゲンハイム邸は、手に馴染んだ生活感のある洒落た神戸の西洋館で、このような建造物はおそらく日本にこれ一軒だけでしょう。ここをロケ場所として使わせていただいたのは、まさにラッキーでした。



© 2020 NHK, NEP, Incline, C&I

「シネマ・セレクション」の魅力

これまで何度か参加していますが、「クロウト好みの凝ったセレクトだなあ」と毎回感銘を受けております。東京からの距離感もちょうどよく、中心ではない少しはみ出した場所こそ、何か新しいものが生まれる拠点なのだという説にいかにもびたりと当てはまっていて、参加する度にワクワクする胸騒ぎを感じます。実は東京で映画を撮るとき、中心部で撮影することはほとんどなく、大抵は周辺部でのロケとなります。『散歩する侵略者』の夫婦の家は所沢でしたし、『クロービー』の大学も『予兆』の病院もこの近辺でした。つまり、ここいらへんは多くの日本映画がまさに生み出されている実際の場所でもあって、現代日本映画の誕生と完成を同時に支えている、そんな重責をこの映画祭は案外担っているのです。

イの妻』の脚本でした。一読してあまりの面白さに舌を巻いたのですが、時代ものには当然予算もかかり、実現させるのは大変難しいことが予想されました。しかし、その後NHKなども参入してあれよあれよと言う間にTVドラマの企画としてスタートしました。

戦時下のリアリティを追求

戦時下の日常を舞台にした娯楽映画は日本ではほとんど作られたことがなく、初めての試みをどういう作戦で乗り越えるかというのが、まず僕に与えられた課題でした。戦争という極めて重いテーマが中心に据えられていると同時に、サスペンスやメロドラマといった娯楽映画の構造も持ち合わせているので、正反対のベクトルが打ち消し合わず両立することに一番神経を使いました。時代のリアリティを表現するために様々な試行錯誤がありましたが、一番参考になったのはやはり当時作られた映画です。俳優の衣装や髪型、そして立

ち居振る舞い、せりふ回しなど、多くは昔の映画を規範としています。

蒼井×高橋×東出

俳優の演技は、いつも僕の予想をはるかに超えます。今回は、例えば蒼井優さんの「卑怯です、そんな言い方」というせりふの切迫感、高橋一生さんの「僕はコスモポリタンだ」の冷静沈着ぶり、東出昌大さんが最後に「よし見よう」と椅子に腰かけたときの虚無、いずれもこちらが指示したわけではなく、俳優たちが独自に生み出した表現です。



本作ではコスチューム・プレイの楽しさを大画面で体験していただければ、それだけでも充分満足していただけるのではないのでしょうか。主要なキャストたちの衣装は、当時の古着が使えるわけもなく、選りすぐった生地を一旦から採寸してすべて手作りしました。これは大変な警沢で、ちよつとした見どころです。

贅沢なコスチュームと魅力溢れる洋館



4.16 金

13:00-『なぜ君は総理大臣になれないのか』

(バリアフリー上映)日本語字幕付き

キネマ旬報ベスト・テン文化映画第一位。小川淳也議員を立候補時から17年追ひ、別世界と感じがちな“政治家”をリアルに伝える。小川氏と家族の誠実さ、「選挙」というシステムやタイトルに込められた想いに涙する。

●大島新監督 来場予定

誰もが出馬を止めようとしている頃から小川議員に興味を持った経緯や、撮影のエピソード、そしてプロデュース作品『ぼけますから、よろしくお願ひします』『ムヒカ世界で一番貧しい大統領から日本人へ』などについてもお話しさせていただきます。



© ネットゲン

4.17 土

10:30-『カレーライスを一から作る』

(バリアフリー上映)日本語字幕付き

所沢市と「文化芸術における連携・協力協定」を結ぶ武蔵野美術大学においてグレート・ジャーニーで知られる探検家・関野吉晴氏課外ゼミの記録。米と野菜と肉と調味料と食器、必要なものを自分たちで作る!食べる!

●前田亜紀監督 来場予定

テレビドキュメンタリーで活躍する前田監督の初長編映画が本作。特別企画として、関野吉晴氏と前田監督の対談が実現。9カ月間かけて出来上がるカレーはどんな味?生きること、食べること、尽きない対話を楽しみます!



© ネットゲン

特別対談 前田亜紀監督 × 関野吉晴 武蔵野美術大学名誉教授

4.18 日

12:00-『プリズン・サークル』

(バリアフリー上映)日本語字幕付き

「島根あさひ社会復帰促進センター」で取り組まれているTC(回復共同体)プログラムを記録。受刑者同士の対話をベースに、自身の過去と向き合い更生に繋げるTCは、私たちの日常に導入したい素晴らしい知恵。

●坂上香監督 来場予定

米国の受刑者などの取材を続けてきた監督。本作は日本初の刑務所内の長期撮影であり、取材許可まで6年、撮影に2年を要した。TCを通して新たな価値観や生き方を身につけていく姿を描き出す。文化庁映画賞受賞



© 2019 Kaori Sakagami

所沢ミュージズ シネマ・セレクション ~世界が注目する日本映画たち Part 19~

2021年4月16日(金)~18日(日) 料金:全席指定(各回)1,000円 好評発売中

※未就学児の入場はご遠慮ください。 ※新型コロナウイルスの感染状況により公演中止の可能性がございます。最新情報は所沢ミュージズの公式ホームページでご確認ください。



全作品、上映後に
トークショーを
予定しています